



2022 年 4 月
第 724 号

日本基督教団 平塚教会
発行人 平塚 教会
編集人 日下部 明美
〒254-0045 平塚市見附町 6-18
電話 〇四六三(32) 八八三一



楽しいことは楽しくやろう

平塚教会牧師 北川 一明

私たちにすべてのものを豊かに与えて楽しませて
くださる神に望みを置くように。

(テモテ一六・一七)

オリンピック壮行会の選手挨拶などで「楽しんで来ます」という発言が増えました。昔なら不謹慎と叱られたことを今の若い人たちは知りません。代表選手には公費が投入されています。昔は「日本のために頑張ります」と言うことが期待されていました。

生理学・心理学は年ごとに向上しています。楽しむことが実力向上に果たす役割は二〇世紀なかばまで不明確でした。スポーツでは、素手または竹刀で選手の顔、尻、背中を激しく殴打し苦しめる指導が有効と信じられていました。

スポーツに限らず国家を代表するまでになった人たちは、誰でも並み外れた努力をしています。好きなことだから努力を続けられたのです。ですから「楽しんで来ま

す」で良いのですが、教育面を考えると一抹の不安がないではありません。コメントを聞いた若者が、努力の必要を軽視することが心配です。

「怠惰で愚かな者は、人間の屑として社会の底辺に埋没すれば良い」と考えるのは、生産性重視の立場からは魅力的です。でもキリスト教会は、全ての人が神の似像性を取り戻すよう努めるべきです。特に幼児教育を神から託されている私たち平塚教会は、子どもたちに努力の大切さを教えなければなりません。

「子ども」には教える必要があります。「若者」だと微妙です。「おとな」は対等ですから「教える」ことはできません。おとなに対しては相手が気付くよう啓蒙するのがせいぜいです。

子どもに教える際に難しいのは、忍耐や努力はどんなに大切であってもそれ自体が目的ではないということですね。近頃は頑張りさえすれば結果は問われないと誤解する若者も増えました。おとなが「頑張ったから良いんだよ」と褒めるからです。社会に出たとたんに努力ではない結果が求められ、適応できなくなる若者が続出してい

目 次

楽しいことは楽しくやろう 北川一明牧師 …1	2022 年度 平塚教会聖餐礼拝予定 …3
	幼稚園卒園式 (写真) …4
自然災害に思うこと 日下部明美 …3	編集後祈 …4

ます。

日本の多くの教会が「教会婦人会」のたいへんな努力に支えられてきました。それだけに、婦人会から信仰継承が途絶えて行った教会を多く見てきました。

戦後たくさんさんの教会が建てられた時期です。教会は様々な奉仕を必要としていました。壮年男性が会社で働いている平日は、教会には専業主婦が集まりました。ご婦人がたは自分のアイデアで、また自分の責任で奉仕しました。責任がある以上、努力と忍耐も必要です。

それでも世は男性社会です。家の中では姑が親切かつ詳細な指導をしてくれます。自分の発想を活かす場がありません。それに比べて教会では自分の思いが実現します。努力と忍耐を苦にしないだけのやり甲斐を感じたでしょう。

喜び楽しみながらする奉仕はますます充実しました。そうしているうちに、教会毎に色々なしきたりが出来ました。しきたりに従っていれば、いちいち考えなくても効率的に奉仕できます。そこで新たな奉仕に手を広げることも可能となり、神と隣人への貢献は、ますます大きくなりました。

残念なのは、努力を続ける信徒たちの多くが自分たちは「楽しんでるわけではない」と考えたことです。当時の日本社会の価値観は忍耐は美徳、個人的な楽しみは悪徳というものでした。教会で楽しむのは悪いことと思ったのです。本当は「神と教会のためにしているのに、楽しませていただいて感謝です」と考えるべきところでした。

現代の新来会女性の生活環境は昔と違います。核家族には家のしきたりも姑の指導もありません。家政は自分の発想と自分の責任でやります。ところが教会には大量のしきたりがあります。新来女性は教会の先輩信徒に姑性を感じました。

かつての姑は、家庭に一人だけでした。後には家庭にはいないのに、教会に行く五人、十人の姑、小姑に圧倒されるようになりました。新しい人が進んで教会の交わりに入ることはなくなって行きました。

今、教会を支えているみなさんは、ちょうど中間の世代でしょう。理不尽に感じられるしきたりもあつたでしょう。それでも自分なりの工夫が活かされる場もあつたでしょう。スポーツと同じで、ある程度の

努力と忍耐を経た後に、他には換え難い喜びが分かってきます。理不尽を感じる以上の喜びに目覚めた人が教会に残りました。

しきたりは、出来たときには理由がありました。それを知らずに破ると失敗することがあります。でも昔の信徒は、失敗すること考え、少しずつ改善して行きました。失敗を自分で乗り越えることも大きな喜びだったのです。

同じ努力と忍耐なら、意味の分らないしきたりを我慢して守る努力と忍耐よりも、失敗を補う努力と忍耐のほうがずっと建設的です。

近隣諸教会は急速に衰えています。教会をあげて悪いことをしているからです。意味を考えずにただしきたりを続けようとするのは悪事です。

多くのしきたりが、その教会に独自のローカルなものです。二〇〇〇年で世界の伝統になっているものの、聖書に返って考えれば実は無意味な宗教慣習もあります。平塚教会は、楽しいことを楽しくやれる教会に行きたいです。

自然災害に思うこと

日下部明美

自然災害の頭に浮かぶのは一月三月です。一月十七日、阪神大震災から数えて二十七年、三月十一日、東日本大震災は数えて十一年になります。一九二三年九月一日の関東大震災は今年で九十九年を数え、記憶にある方は神様の元に行かれた方々が多いのですが、前記二つの地震は体験された方々が多く、火災や津波が伴われなければ助かる命も多くあったのかもしれない。

この災害で学習した知恵を今の防災に活かし備えていかねばなりません。南半球のトンガ沖の海底火山噴火で八〇〇〇キロ離れた日本に津波が到達したのは記憶に新しいことです。

過去にはペルー沖の地震で日本に到達した津波で海岸にいた方々が犠牲になり、現在のように世界的観測網で予知できる前の出来事でした。

直近には三月十六日午後十一時三十分福島県沖の震度六強の地震が起こり、幸いなことに津波は起こらずに済みまし。一週間後の報道で、被災された方が十一年前、津波で家を流され、再建した家で去年

の地震で壊れたところを修復したところにまた地震、三回も経験するなんてと嘆いておられました。頻繁に起こる余震に今どのような毎日を送られているのか、祈らずにはいられません。

この地震で十機ある火力発電所が停止し、不幸にも寒さが増し使用電力が供給電力を超え、政府から節電のお願いが出ました。

地震だけでなく台風、竜巻、ゲリラ豪雨と自然災害が年々増えているように思うのは私だけの思いでしょうか！

今も起こる全国各地の地震も気がかりですが、これは自然災害ではありませんがCOVID-19の猛威で蔓延防止が発令され解除された今、年度末、年度初めの人々がたくさん移動する時、春休みをウィルスは容赦なく待ち構えています。基本の対策を守り、工夫をして日々を過ごして、元の礼拝に戻ることを望みたいと思います。



2022年度 平塚教会聖餐礼拝予定（3月27日役員会案）

4月	5月	6月	7月
4/17 (復活日)	5/1 (月第一日曜日)	6/5 (聖霊降臨日)	7/3 (月第一日曜日)
8月	9月	10月	11月
8/7 (平和聖日)	9/4 (月第一日曜日)	10/2 (世界聖餐日)	11/6 (永眠者記念日)
12月	1月	2月	3月
12/25 (降臨日)	1/1 (元旦)	2/5 (月第一日曜日)	3/5 (月第一日曜日)



三月十七日、第九十五回卒園式が行われました。二十四名の卒園生揃って証書を授与されました。

式後、園庭では立て看板やお友だちと写真を撮ったりして、最後のお別れを惜しんでいました。



編集後祈

ご在天の父なる神様。
おとずれ第724号の発行を感謝します。
あなたの御子のご復活を待ち望むレントの時を過ごしていますが、戦争が起こってしまいました。どうぞあなたによる停戦が一日も早くおとずれることをせつに祈ります。

編集子



平塚教会はウクライナ支援のアピールを教会玄関に花でウクライナ国旗を示しています。